

## 磐梯山の火山活動解説資料（平成30年7月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-①）

剣ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰に設置している監視カメラによる観測では、沼ノ平周辺に噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図3-②～⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況  
（7月5日）

- ・ 剣ヶ峰（山頂の北約7km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 赤丸で囲んだ部分が山体北側火口壁からの噴気で、この時観測された噴気の高さは30mです。



図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況（7月27日）

- ・ 櫛ヶ峰（沼ノ平の北東約600m）に設置している監視カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年8月分）は平成30年9月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

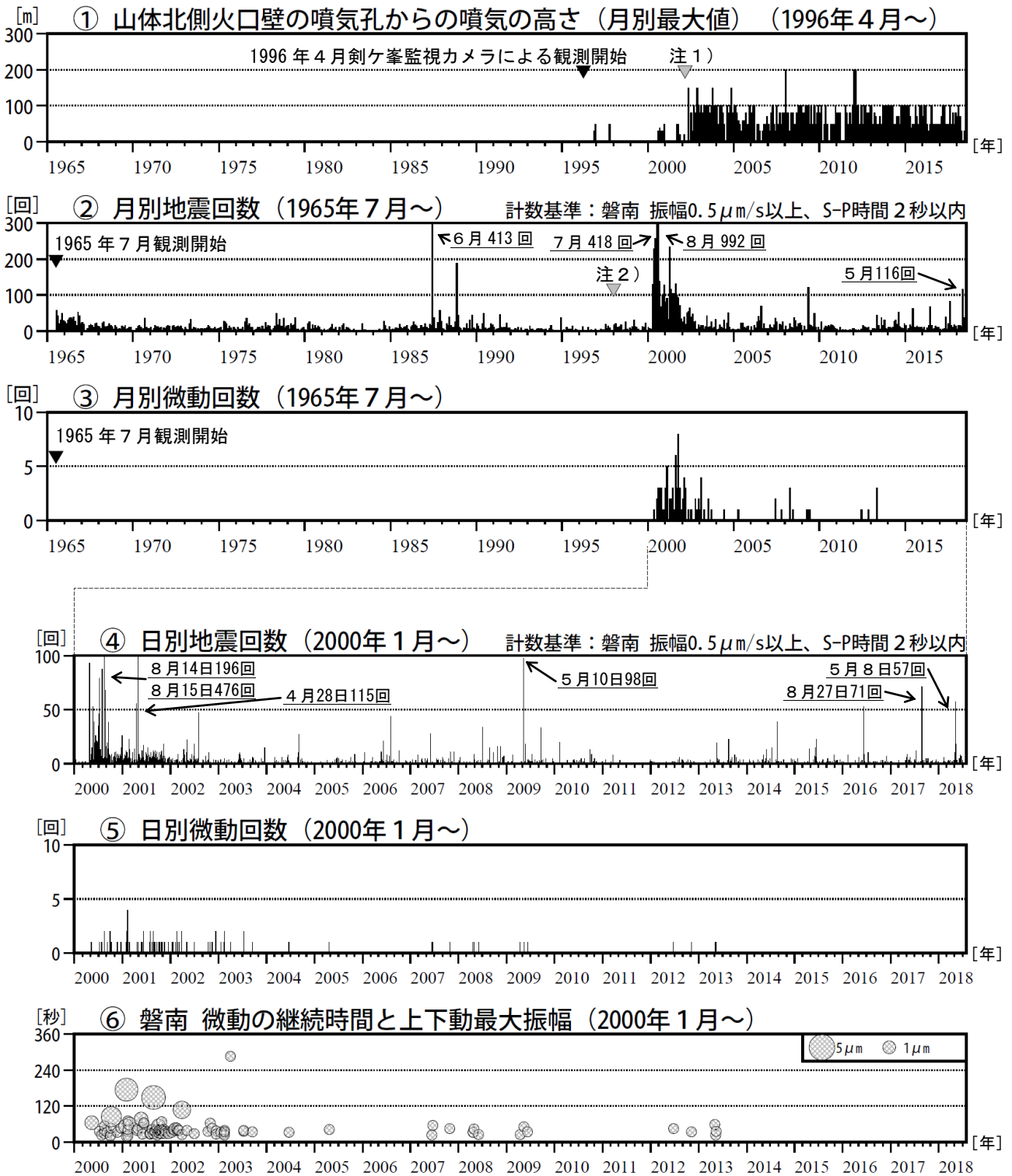


図3 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2018年7月）

- ・①注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・②注2) 1998年より計数基準をS-P5秒以内からS-P2秒以内に変更しました。

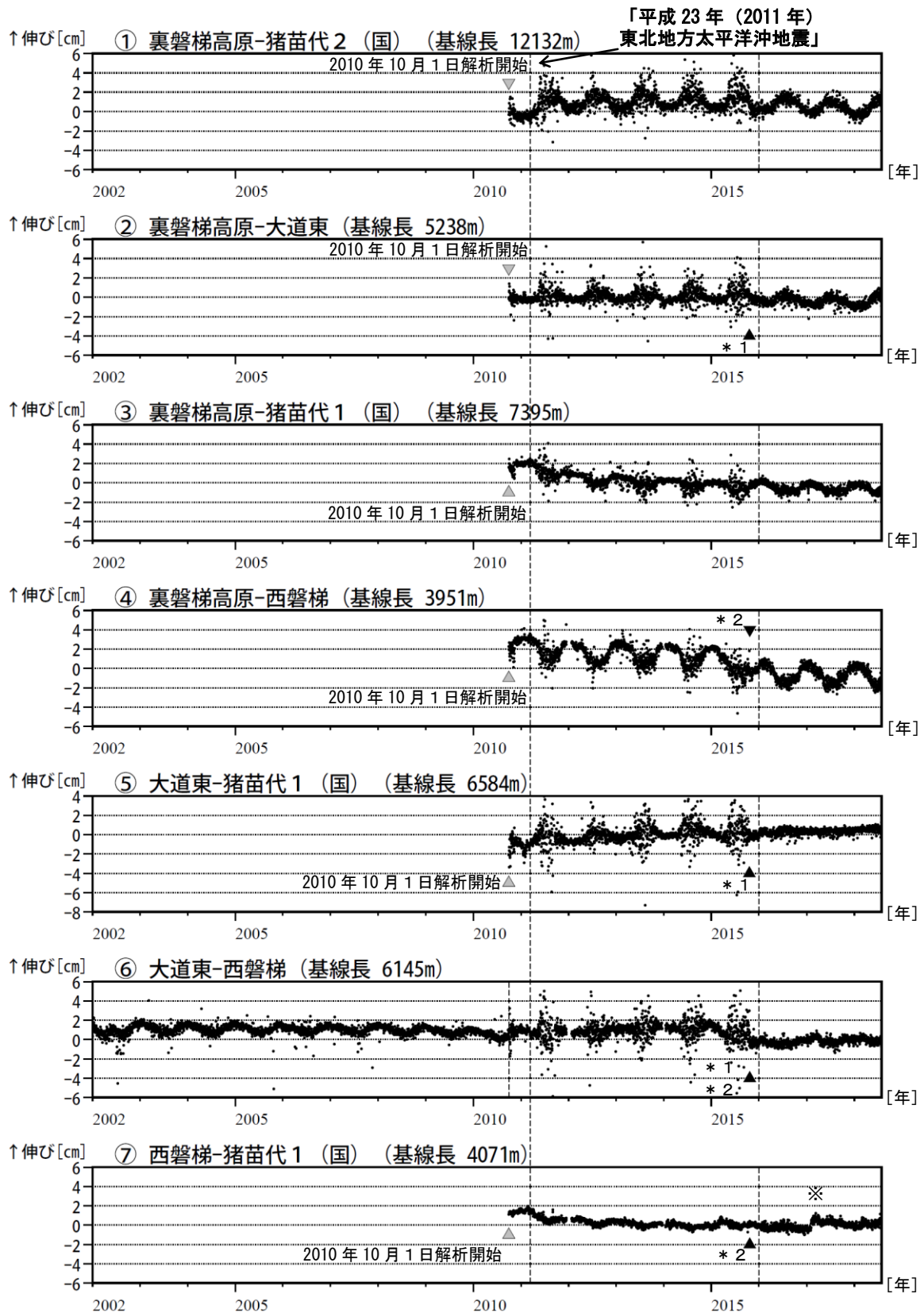


図4 磐梯山 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図 (2002年1月~2018年7月)

- ・ 2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
  - ・ 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
  - ・ ①~⑦は図6のGNSS基線①~⑦に対応しています。
  - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
  - ・ (国)は国土地理院の観測点を示します。
    - \* 1 : 大道東観測点の機器更新及び移設を行いました。
    - \* 2 : 西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
  - ※西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- 1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

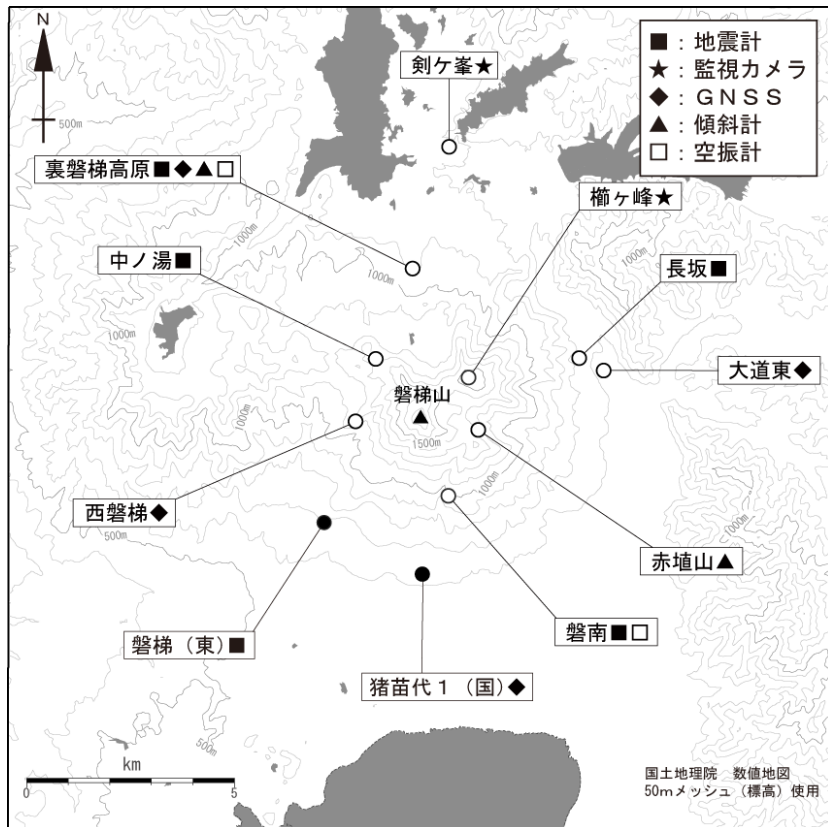


図5 磐梯山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学

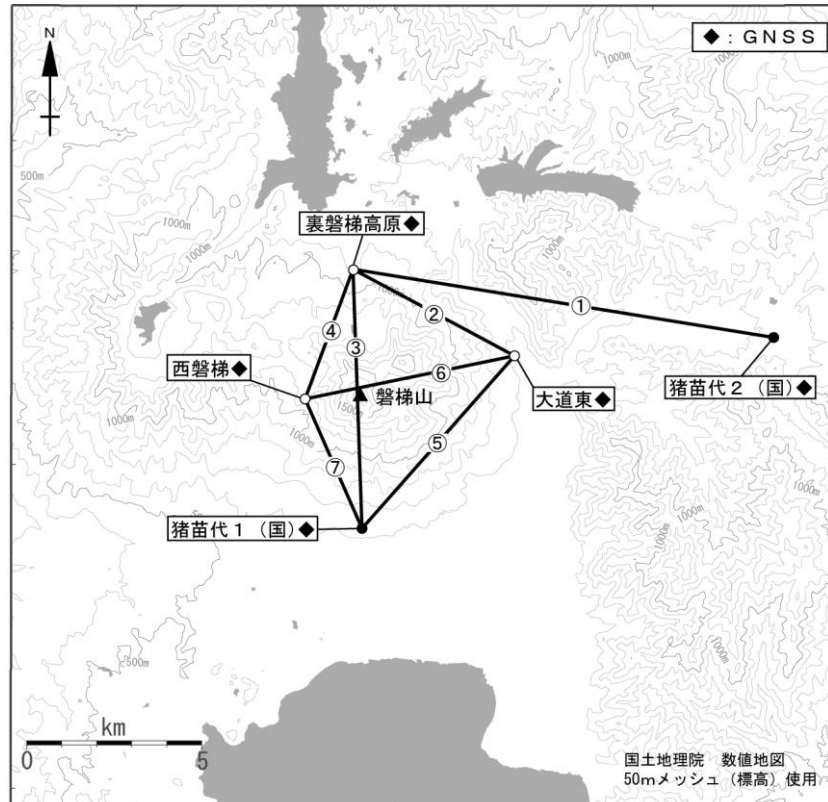


図6 磐梯山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院